

令和6年度 事業報

社会福祉法人 慈敬会

特別養護老人ホーム ヒューマン・ケアこうしの杜

1.利用状況

1-1 利用者の状況(令和7年3月31日現在)

	男性	女性	合計
入所者数	5	22	27

1-2 入所利用者の要介護度

介護度	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計	平均
人数	0	0	11	9	7	27	3.85

1-3 年齢別利用者数

年齢(歳)	70~74	75~79	80~84	85~89	90~	平均年齢
男性	2	0	1	1	1	83
女性	0	0	1	6	15	92
						90

1-4 入所申込(待機)の状況

介護度	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計
人数 (人)	0	0	2	1	1	4

1-5 入所利用状況

	実日数	延人数	入・退所		入所率(稼働率)
	入所	入所	入所	退所	入所
4月	30	771	1	1	88.6%
5月	31	821	2	0	91.3%
6月	30	807	0	2	92.8%
7月	31	820	0	2	91.2%

8月	31	811	1	0	90.2%
9月	30	706	0	2	81.1%
10月	31	706	1	2	78.5%
11月	30	713	1	1	82.0%
12月	31	735	0	0	81.8%
1月	31	751	2	0	83.5%
2月	28	754	1	0	92.9%
3月	31	826	0	1	91.9%
累計／平均	30.4	9221	9	11	87.1%

2. 苦情処理について

苦情解決責任者	苦情受付担当者	第三者委員	
土屋 政伸	濱本 純児	井 子文	横山 廣秋

苦情・相談内容及び件数

受付日	内容	解決策
R6.7.11	・本人より、入浴がしたかったがシャワー浴での対応となった為、不満が上がっていた。	・当日は入浴予定者が多く時間も押していた為、対応がシャワー浴となった。今後は事前に時間配分に配慮する事を説明し、調整を行った。
R6.8.16	・居室整理をしていたらタオルケットが見当たらず、利用者よりクレームがあり捜索、後ほどリネン業者から連絡がありシーツに混じていたとの報告を受ける。	・介護職員、相談員より本人へ謝罪を行い、今後、誤って紛失しない様に注意する事をお伝えした。シーツ交換の際には注意して選別する様、職員間で通知した。
R6.10.4	・ご家族より郵送物が開封されていたとの事で苦情があった	・相談員が交替となり、開封して確認すべき物とだめな物の判別がよく出来ていなかった。当該利用者家族も利用期間が短い事もあり不信感につながった為、関連施設の相談員にもアドバイスをもらい必要分の確認作業を検討した。

合計

3

3.防災管理について

総合防災訓練の実施状況(2回/年実施)

【第1回目】…令和6年6月13日に総合防災訓練を実施(夜間想定)自主訓練

・事故等なく避難誘導が出来ていた。夜間帯3名(夜勤2 宿直1)の想定でしたが、スムーズに行動出来ていました。
 訓練終了後に消防用設備についても説明を受けました。

【第2回目】…令和7年2月18日に総合防災訓練を実施。(日中想定)消防署立ち合い

・特に問題等なく実施できました。訓練後に、初期消火訓練と防災設備の説明を業者の方より行って頂いた。初期消火は多人数で行うのが効果的とのアドバイスを受けた。

消防用設備等の点検状況(R7/3よりアサヒファシリティズに業務委託)

・令和7年3月18日実施。…異常なし。

4. 職員数、職員採用状況:令和7年3月31日付

<R6年4月1日～令和7年3月31日>

職員雇用状況	令和6年度人員		令和5年度同月人員
職員総人員数	31名 (男性:11名 女性:20名)		32名:毎年度-1名 (男性:10名 女性:22名)
正職員	19名	-1	20
パート等時間短縮職員	7名	-2	9
外国人雇用者	4名 (フィリピン、ミャンマー)	+2	2名 (フィリピン、ベトナム)
居宅介護支援事業所	1名	0	1名
計	31	-1	32
退職者	8(パート3)名 介護、看護、調理、相談員		2名 調理1名、介護1名
入職者(パート)	5(パート3)名		1名

	介護、看護、調理		調理
産休育休者	1名		3名
勤続10年以上者	10名		11名
合志市在住	17(55%)		17名(53%)
派遣職員	1名(介護)		2名(介護1名 調理1名)

<入所事業>

配置基準の職種(人数)	人数 (兼務)	有資格(前年数)
施設長:1	1	社会福祉士 1名(1)
看護師:1	4	看護師 5名(5)
介護職:10	15	介護福祉士 10名(13)
理学療法士	1	介護支援専門員 4名(4)
生活相談員:1	1	社会福祉主事 3名(3)
介護支援専門員1	1	管理栄養士 1名(1)
管理栄養士:1	1	調理士 1名(2)
事務職	2	理学療法士 1名(1)
調理員	2	ユニットリーダー研修受講者 3名(3)
清掃	1	認知症介護実践リーダー研修修了者 3名(3)
委託医(非常勤)	(1)	認知症介護実践者研修 5名(2)
		認知症ケア専門士 3名(4)
計	30名 +派遣1	介護職員初任者研修修了者 0名(4)
		介護福祉士指導者講習終了者 1名(1)
		技能実習責任者講習終了者 1名(1)
		技能実習指導員講習終了者 3名(2)
		安全対策加算対応研修修了者 1名(0)

<通所事業>

*令和6年7月末日を以って休止中

配置基準の職種(人数)	人数(兼務)	
管理者・生活相談員(1)	—	
看護職(兼務可)	—	
介護職(1)	—	
計	—	

<居宅支援事業>

配置基準の職種(人数)	人数(兼務)	資格:看護師・主任介護支援専門員
管理者・介護支援専門員	1	
計	1名	

職員状況の詳細

直接ケアに携わる介護の正職員数が減少し、夜勤従事者の不足に加えパートの職員雇用も少なくなっている。

新規雇用があっても60～70代に頼らざるを得ない状況であり、今後さらに外国人雇用に頼る状況になると予想される。

人員確保に加え、ケアや業務の工夫が必要である。間接的業務の簡素化や介護機器の導入等を行い入居者の方個人のケアの質を大切にしながら職場環境改善を今後も考えていきたい。

5. 職員 福利厚生

- ・職員健康診断料:夜間勤務者は年2回実施(3月・9月施行)、新入職者検診)
- ・インフルエンザ予防接種(10月)
- ・マスクの配布(1回)
- ・年末忘年会お年玉景品
- ・誕生日クオーカードプレゼント

6. 令和6年度 施設運営と入居者へのケアの報告

主な活動 *は、地域交流内容

*研):研修会

年月	施設運営設備管理	主な行事・余暇活動 *地域交流	職員研修・活動
R.6年 4月	害虫駆除 <small>新型コロナ感染 予防</small>	・介護相談員訪問2名 ・軽食づくり	研)おむつの当て方 ユニ・チャーム(外部講師)
5月	運営推進会議 防災・電気機器点検 理事会 食中毒予防啓 発活動	・介護相談員訪問2名 ・居室での面会開始 ・居室環境整備、エアコン清掃、衣替	研)感染症について・資料配 布 コロナ、食中毒、ノロイ ルス
6月	防災訓練・消防設備 点検 評議員会	・水無月のお茶会 ・介護相談員訪問2名	研)中止
7月	運営推進会議中止 備品在庫整理	・七夕飾り ・介護相談員訪問2名	研)自然災害シミュレーション グリーンみふね施設長(外部 講師)
8月	職員検診(夜勤者)	・介護相談員訪問2名 ・納涼祭 ・城北高校介護実習1名	研)高齢者の権利擁護につて 不適切ケアのワーク ハラスメントについて
9月	施設内コロナ感染 推進会議中止	・敬老会式典(ご家族参加なし)	研)中止
10月	インフルエンザ予防 接種 面会開始	・介護相談員訪問2名 ・寝具、衣類交換	研)リスクマネジメント (事故集計・分析) 感染症対策シミュレーション
11月	運営推進会議 インフルエンザ予防 接種	・スポーツ大会 ・介護相談員訪問2名 ・喫茶	研)認知症の理解を深める
12月	総合防災訓練 コロナワクチン(希望 者) 理事会	・介護相談員訪問2名 ・クリスマス&忘年会	研)高齢者ケアに関する倫理 と 権利擁護 虐待と身体拘束廃止のビデオ 視聴

R.7年 1月	運営推進会議 電気設備・ガス点検	・おせち料理	研)中止 資料配布:お看取りについて
2月	総合防災訓練 次年度委員会計画立案	・喫茶カフェ、節分、豆まきイベント ・介護相談員訪問2名	研)中止
3月	運営推進会議 理事会・評議員会 職員検診(法定)	・介護相談員訪問2名 ・桜花見(ドライブ)	研)リスクマネージメント (事故報告書集計・分析) ・本年度事業まとめ、報告 ・次年度委員会計画
備考	各種変更更新手続き (定款・規定)	・くつろぎ喫茶・杜カフェ	・生産性向上委員会3ヶ月 ・虐待防止検討委員会3ヶ月 ・身体拘束廃止検討委員会3ヶ月

*中止:各ボランティア(前年度に続き)

7. 施設委員会

以下の委員会を編成し、円滑な施設運営と入居者の方へのケアの向上に努めている

- ・研修記録委員会:月1回の施設内研修内容を考える ケアの質的向上
- ・ケア向上委員会:日々のケアや業務改善を考える
- ・リフレッシュ委員会:日々のレクリエーションや余暇活動、季節行事の充実を考える
- ・リスクマネージメント委員会:危機管理 施設内のリスク回避や介護事故予防を考える
- ・身体拘束廃止適正化委員会:尊厳を守り行動制限等を行うことなく安全に配慮したケアを考える
- ・虐待防止検討委員会:高齢者の権利擁護を考える。また日頃のケアが不適切ではないか検討する
- ・保健衛生委員:衛生管理、感染症予防を考える、感染管理上の事業継続計画の見直し
- ・環境美化委員会:施設内美化、環境整備、エコを考える
- ・栄養管理委員会:健康管理 栄養マネージメント 食の愉しみを考える
- ・災害防災対策委員会:施設内の防災、地域災害時の支援活動を考える、災害上の事業継続計画の見直し
- ・生産性向上委員会:入居者の方の生活満足度を上げるための、施設運営管理や職員の就業意欲向上を考える・広報活動を含む

各委員会は、月1度の委員会を開催し(3ヶ月に1回開催の委員会もある)年間計画に沿って業務を実行した。各委員会が実行した内容は記録にまとめ、管理者は記録を確認する。また職員全員が記録を閲覧できるように保管している。

8. 運営推進会議の状況

感染症の状況で昨年度まで中止することが多かったが、今年度はほぼ定期に開催した。

9. 入居者の方へのケア の詳細

①食事サービスについて

【給食に関する方針】

入居者の方が、軽食づくりに参加されて、そこから残存機能を活かすことができたり、生きがいの場となるように食事行事を企画している。

安全・安心な料理の提供、また、地産地消、地域の商店と取引を行い、その土地の食材や郷土料理をとりいれ、家庭的で入居者の方になじみのある料理を提供することを心掛けている。

【栄養量等の状況】

	エネルギー —kcal	蛋白質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンC mg	塩 g
令和6年度の 栄養所要量	1526	51.9	629	5.7	100	6.6
令和6年度 給与栄養量	1695	60.8	653	8.5	124	9.6

(1)入居者の方がくつろいで食事出来るような配慮とその対応

感染対策のなかで、食事の座席の向きは、一方向での食事であった。

食器は陶器を使用して家庭的な雰囲気を作っている。

(2)利用者の身体状態(咀嚼能力、健康状態等)に合わせた調理への配慮及び対応

その都度栄養士に報告し、次の提供時に対応できるようにしている。

カンファレンスで検討したり、栄養士が食事場面を巡回して確認をしている。

(3)食事が適温で食べられるような配慮とその対応

ユニットには、冷蔵庫・電子レンジ、IHコンロがあるので、

遅れて食される方には適温で対応している。米飯は各ユニットにて炊いている。

また、汁物も温められるように鍋でユニットへ配膳している

(4)利用者の身体状態に応じた食事のための自助具等の活用

個人用自助具は各自持参していただいたり、個人に合う自助具を購入アドバイスしている。
麻痺や視覚障害がある方にはその人にあった器もできる限り陶器を使用している。

【食事形態】

令和7年3月1日

軟菜食	刻み食	やわらか食	極キザミ食	ミキサー食	ミキサーハーフ食	合計
9	8	0	6	3	1	27

(在籍入居者 27名)

【食費】 朝食:380円 昼食:500円 夕食:565円 1日:1,445円

②ケアカンファレンス

入居者の方へのケアをより良いものにするために、朝の引継ぎ後 15～25 分間のカンファレンスを継続している。その内容はおひとりお一人についてのケアの方法や業務の見直し、事故の再発予防について等の検討を行いケアの統一を行っている。入居者の方にも参加していただく場合もある。カンファレンスは、当施設理念を日頃から意識付けられるシステムである。

③ケアプラン・機能訓練実施状況

ケアプランに基づき個別の機能訓練計画書を作成し実施している。計画書の内容は、歩行訓練や移乗動作訓練に加え、生活に即したトイレの動作やベッドから車いすの移動動作など、個人の習慣に加え、洗濯物の整理など入居者の方々との交流も行いながら機能訓練を行っている。

ケアプランカンファレンスも従来通り、ご家族も参加していただくことができ、ケアの詳細を説明したりご家族の質問にも答えることができている。

④余暇活動について

日々の余暇活動については、個別のケアプランを基にその日のユニット担当者が実行している。

また、リフレッシュ委員会でも季節のイベントや外出ドライブを企画し、合志市の感染状況を見ながら可能な限り季節行事を日常に取り入れた。

⑤感染症対策について(総括)

R6年8月下旬に10日間、コロナウイルスが発生した。入居者3名の方に陽性反応があった。3名の方は共に軽症で終息した。コロナワクチンは65歳以上の方希望者のみ接種しインフルエンザワクチンも希望者接種であるがほとんどの方が接種され、今年度の感染者はいなかった。

感染症対策として、感染症が発生した場合の物品準備のシミュレーションを研修で行った。

個人ワークとグループワーク方式で行ったので、気づきの習得ができたことが感想にあった。

⑥入居者の健康管理について

入居前には、嘱託医先に受診しご家族も医師と面談し、その後もご本人とご家族が医師からの身体の状態上の説明を受け、安心して施設生活が送れるように医師と看護師が連携している。

施設内の健康管理は、月4回火曜日に嘱託医の往診がある。内服の変更や症状の変化があれば、ご家族へ随時連絡している。また、病状の増悪が懸念される場合や今後の療養の検討が必要な場合には、早期に医師からの説明を受けられるように、ご家族に連絡を行い今後の療養を医師とご家族と相談している。

⑦最期のお看取りのケアについて

ほとんどのご家族が入居者の方の身体に負担をかけない緩和ケアを施設療養の中で行うことを選択された。

今年度施設でお看取りをさせていただいた方は8名の方であった。

ご本人が安楽に最期を全うされるように、お看取り時期と医師が判断された時期にカンファレンスを行い詳細にケアを統一し実施した。そしてお亡くなりになられた後の振り返りのカンファレンスも行った。また、命の尊厳を日々考え最善のケアを行うために、前田医師にもケアの相談したり共に検討を重ねている。

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 慈敬会

特別養護老人ホーム ヒューマン・ケアたかばの杜

令和 7年 3月 31日

1. 利用状況

1-1 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

	男性	女性	合計
入所者数	5	22	27

1-2 入所利用者の要介護度

介護度	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計	平均
人数	0	1	5	18	3	27	3.85

1-3 年齢別利用者数

年齢 (歳)	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	平均年 齢
男性	0	1	0	2	2	87.2
女性	1	0	6	4	11	89.4
						89.0

1-4 入所申込（待機）の状況

介護度	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計
人数 (人)	0	0	1	1	1	3

1-5 入所利用状況

	実日数	延人数		入・退所		利用率（稼働率）
	入所	入所	短期	入所	退所	入所
4月	30	727		2	0	89.8%
5月	31	828		1	0	98.9%
6月	30	800		0	0	98.8%
7月	31	788		0	1	94.1%
8月	31	776		0	1	92.7%
9月	30	738		0	1	91.1%

10月	31	738		1	1	88.2%
11月	30	691		0	1	85.3%
12月	31	693		2	1	82.8%
1月	31	675		0	1	80.6%
2月	28	643		1	0	85.1%
3月	31	801		3	0	95.7%
累計／平均	30.4	8898		10	7	90.3%

2. 苦情処理について

苦情解決責任者	苦情受付担当者	第三者委員	
土屋 政伸	野村 佳宏	井 子文	横山 廣秋

苦情・相談内容及び件数

受付日	内容	解決策
-----	----	-----

R6. 7. 2	<p>利用者様の家族より、面会時に肌着を持参したため衣類整理をしようとタンスの中を確認すると肌着が5～6枚入っており、面会后娘様から「肌着が足りないと言われて持ってきたのに、タンスの中に何枚もあった。見たらわかるでしょう。タンスの中に入っているものを使ってください。とりあえず今日持ってきた分はいったん持って帰るので、いる時にまた言ってください」とのことだった。</p>	<p>実際に利用者様の肌着は何枚があったが洗濯に出してしまっていたため、一時的にタンスの中に肌着がなくなっており、その状態を見た職員が肌着がないと認識してしまい介護長に足りない旨報告したために介護長がご家族に持参を依頼したために起こっていた。今後は連絡する前に、今一度チェックを行い、その後ご家族に相談するようにすることとした。</p>
	合計	1件

3. 防災管理について

総合防災訓練の実施状況（2回／年実施）

<p>【第1回目】…令和6年9月3日に総合防災訓練を実施（日中想定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厨房より出火想定 ・訓練後に参加者に自動火災報知設備の受信機・発信機の火災発報時・誤作動時の対処法、ベルの止め方等の説明を行った。
<p>【第2回目】…令和7年1月21日に実施。（夜間想定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厨房より出火想定

管理栄養士:1	2	認知症介護実践リーダー研修修了者 1名(2)
機能訓練指導員:0	0	認知症ケア専門士 1名(1)
事務職:基準なし	1	介護職員初任者研修修了者 2名(2)
調理員:本体との兼務可	4	技能実習指導員講習終了者 2名(2)
清掃:基準なし	1	安全対策加算対応研修修了者 1名(1)
委託医(非常勤)	(1)	
計	29 (3)名	

5. 入職、退職者状況

配置基準は満たしているが、こうした杜同様に正職員の人数が少なく夜勤や早出遅出ができる人が不足している。また入居者の方の入浴ができない状況もあるので、こうした杜同様に外部パート勤務者を雇用して対応している。介護機器やICTによる業務改善とケアの工夫を今後も検討していく。

6. 職員 福利厚生

- ・新規採用時の職員健康診断
- ・法定健康診断(夜勤業務者年2回)
- ・インフルエンザ予防接種
- ・年末忘年会お年玉景品
- ・誕生日クオカードプレゼント

7. 施設委員会

以下の委員会を編成し、円滑な施設運営と入居者の方へのケアの向上に努めている

- ・研修記録委員会:月1回の施設内研修内容を考え企画する ケアの質的向上
- ・ケア改善委員会:日々のケアや業務改善を考える
- ・リフレッシュ委員会:日々のレクリエーション・余暇活動・季節行事の充実を考える
- ・リスクマネジメント委員会:危機管理 施設内のリスク回避や介護事故予防を考える
- ・身体拘束廃止適正化委員会:尊厳を守り行動制限をすることなく安全に配慮したケアを考える
- ・虐待防止検討委員会:高齢者の権利擁護を考える。また不適切なケアになっていないか検討する
- ・保健衛生委員:衛生管理、感染症予防を考える、感染管理上の事業継続計画 BCP の見直し
感染症予防のための備品管理補充、施設内消毒
- ・環境美化委員会:施設内美化、環境整備、エコを考える
- ・災害防災対策委員会:施設内の防災、地域災害時の支援活動を考える、事業継続計画BCPの見直し

作成

・生産性向上委員会:こうしの杜と共同運営

・栄養管理委員会:健康管理 栄養マネージメント 食の愉しみを考える

各委員会は、年間計画した内容を実行できるように最低月1度の委員会を開催し業務を実行した。

8. 運営推進会議の状況

感染症の状況で昨年度まで中止することが多かったが、今年度はほぼ定期に開催した。

9. 令和6年度 入居者の方へのケア(活動)報告

1) 月別の主な活動 *は、地域交流内容

年月	施設運営設備管理	主な行事・余暇活動 *地域交流	職員研修会(内部)
R.6年 4月	感染症予防 対策 害虫駆除	介護相談員訪問2 桜の花見(ドライブ)	研)感染管理について 食中毒・ノロウイルス、コロナウイルス
5月	食中毒予防月間	介護相談員訪問2	・職員のメンタルサポート
6月	運営推進員会議	介護相談員訪問2 水無月のお茶会	研)身体拘束をしないケア 研)ハラスメント
7月	消防避難訓練・点検 竹迫観音祭り(不参加)	介護相談員訪問2 七夕飾り	研)認知症の理解
8月	コロナ感染発生 (イベント1か月中止)		研)中止
9月	消防訓練 電気、消防機器点検	敬老会・式典(18日) 介護相談員訪問2	研)リスクマネージメント (介護事故報告書の集計と分析)
10月	運営推進会議	介護相談員訪問3名 紅葉ドライブ	研)老化と老衰死 お看取りについて
11月	インフルエンザワクチン接種	介護相談員訪問2名	研)感染管理 ガウンテクニック、物品準備
12月	運営推進会議 施設内外大掃除	介護相談員訪問2名 ゆず湯 クリスマス・忘年会(各ユニット)	研)高齢者権利擁護 不適切なケアと虐待防止について
R.7年	防災訓練・点検	介護相談員訪問2名	研)災害シミュレーション

1月	WiFi、ココヘルパ設置	正月行事・獅子舞	
2月	運営推進会議 ケアカルテ導入	介護相談員訪問2名 節分イベント・雛飾りつけ	・R.6年度委員会編成 ・次年度計画
備考	エレベーター点検1回/3ヶ月 運営推進会議中止 生産性向上委員会	月1回:ユニット調理(一時中止) ご近所喫茶中止	

2)入所者の方へのケアと業務の活動報告詳細

①食事サービスについて

【給食に関する方針】

入居者様には、家庭的な環境が味わえるように軽食づくりに参加できる機会を作り、作業過程で残存機能を生かし、生きがいとなる場を提供している。

そして安全・安心な料理の提供やまた、地産地消を取り入れている。その土地の食材や郷土料理をとりいれ、家庭的で高齢者になじみのある料理を提供している。

【栄養量等の状況】

	エネルギー —kcal	蛋白質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンC mg	塩 g
令和6年度の 栄養所要量	1526	51.9	629	5.7	100	6.6
令和6年度 給与栄養量	1695	60.8	653	8.5	124	9.6

(1)利用者がくつろいで食事出来るような配慮及び対応

感染対策として食事の座席の向きは、一方向での食事を続けている。

食器は陶器を使用して家庭的な雰囲気を作っている。

(2)利用者の身体状態(咀嚼能力、健康状態等)に合わせた調理への配慮及び対応

その都度、管理栄養士や介護看護職と相談し、次の提供時には対応できるようにしている。

また詳細に食事内容の検討が必要な時にはカンファレンスで議論したり、栄養士が食事場面を巡回し、確認して対応している。

(3) 食事が適温で食べられるような配慮及び対応

ユニットには、冷蔵庫・電子レンジ、IH コンロがあるので、遅れて食事される方にも対応できるようにしている。各ユニットでは、ご飯を炊いているのでご飯の香りを感じることができるようにしている。

(4) 利用者の身体状態に応じた食事のための自助具等の活用

個人用自助具は各自持参してもらっている。
麻痺や視覚障害がある人にはその人にあった陶器を使用している。

【食事形態】

令和7年3月1日

軟菜食	刻み食	やわらか食	極キザミ食	ミキサー食	ミキサーハーフ食	合計
9	8	0	6	3	1	27

(在籍入居者 27 名)

【食費】

朝食:380 円 昼食:500 円 夕食:565 円 1日:1,445 円

②ケアカンファレンス

朝の引継ぎ後 25～15 分のカンファレンスは継続して行っている。その内容はおひとりお一人についてのケアの方法や業務の見直し、介護事故の再発防止策、お看取り前のケアやお看取り後の振り返り等の検討等を行っている。カンファレンスは専門的知識技術の統一と同時にチームワークにおいても重要なことと位置づけ行っている。

③ケアプラン・機能訓練実施状況

お一人お一人のケアプランに基づき歩行訓練や移乗動作訓練に加え、生活に即した食事の準備や後片付け、掃除や洗濯物の整理などの作業を一緒に行いながらも会話を大切にしながら、生活リハビリを行っている。

ケアプランカンファレンスも従来通り、ご本人とご家族も参加していただいている。

④余暇活動について

日々の余暇活動については、個別のケアプランを基にその日のユニット担当者が実行している。

また、リフレッシュ委員会で季節のイベントや外出ドライブを計画し感染症の状況をみながら、できる限り

中

止にせず、時期を変更したり外部の方と接触がない状況で実行した。

⑤感染症対策について(総括)

昨年に引き続き感染症の注意勧告→ご家族への面会制限・解除から面会中止の繰り返しの対応を行った。

マニュアルの整備について厚労省の参考資料を基に新型コロナウイルス感染予防の見直しや追加記載を行った。その内容は、1)入居者の方への配慮やケアについて 2)職員の日常生活や就労上の注意等のまとめ 3)感染症発生時の対応等、フローチャート作成 4)ガウン着脱手順の確認を行い職員に周知した。

また、コロナウイルスワクチン接種については入居者の方は希望者のみ、インフルエンザ予防接種はほとんどの方が接種された。

今年度の感染状況については、R.7年3月下旬に3名胃腸炎感染が発症したが軽症で終息した。

⑥入居者の健康管理について

入居前には、嘱託医先に受診をして、ご家族と医師が面談されている。その後も状態が変化すれば、嘱託医先に受診し施設内で加療を行った。必要であれば、ご本人とご家族が医師と面談できるように医師と連携をとっている。

入居中の健康管理は、月2回金曜日に嘱託医の往診がある。内服の変更や症状の変化等があれば、ご家族へ随時連絡している。また、病状の増悪が懸念される場合や今後の療養の検討が必要な場合には、早期に医師からの説明を受けられるように、ご家族に連絡を行い今後の療養をご家族と相談している。

⑦嘱託医とご家族面談の内容

- 1)入居者の方の状態が変化したとき
- 2)状態が悪化傾向にあり今後の療養が心配されるとき
- 3)ご家族からの相談があったとき
- 4)看取り期と嘱託医が診断したとき

⑧施設でのお看取り状況について

最後まで施設で過ごされ、施設でのお看取りとられたのは6名の方であった。

ご家族には、嘱託医から状態説明を受けていただき安心して療養できるように配慮を行った。

また、お看取り時期と診断されてからは、感染対策を行って居室で面会をしていただいた。

ケアについてはケアプランに沿って看護と介護職で協力しながら、ご本人の身体の消耗を最小限に考え、苦痛の緩和や表情や呼吸の観察を密に行いご本人が安心、安楽に療養できるように務めた。

⑨ケアカルテ、ココヘルパ導入

県の ITC 介護ロボット補助金を受け、記録音声入力システムと見守りセンサー居室カメラ設置を行う記録の簡素化、転倒事故の危険性がある方等の早期発見や夜間の居室訪問や見守り頻度の改善となっている。

令和6年度居宅介護支援事業所ヒューマン・ケア事業報告

(運営方針)

地域包括ケアの実現のために地域と連携し、下記の項目を中心に可能な限り在宅で自立した生活が送れるように支援する。

- ・認知症(若年性を含む)方の在宅支援
- ・要介護者ならび要支援者の重度化予防
- ・医療との連携
- ・在宅におけるターミナルケア
- ・利用者ならび家族支援

以上の居宅介護支援業務の内容に基づく評価を行いたい。

(事業報告内容)

1:基本事業

- ・利用者ならび家族からの相談を受け、要介護認定申請の代行ならびその後の支援を行い、サービス利用につなげ、特に菊陽町及び熊本市からのケアプラン作成依頼が多くあった。
- ・認定後の福祉制度の活用や居宅サービス計画書の作成、サービス導入や連絡調整、モニタリング、給付管理業務などを行った。特に今年度は令和6年度法改正を受け、厚生労働省が推奨するケアプラン連携システムの導入も検討したが、サービス事業所でそのシステムを導入する事業所が少なかったため今年度の導入は実施していない。しかし、今後は合志市及び他の市町村の動向を踏まえ導入の検討も行っていきたい。
- ・合志市をはじめとする近隣市町村(熊本市や菊陽町)の地域包括支援センターからの委託を受け、要支援者の介護予防プランを作成、サービス導入や連絡調整、モニタリング、給付管理等を実施した。今後も予防からかわりを持ちながらいずれ要介護状態になるご利用者の支援を一連で支援できるようにしたい。
- ・特養を含めたグループ施設と連携し、在宅での生活が困難な方への施設入所を含めた支援を行う。

2:地域とのつながりを深め、地域福祉に貢献する計画であったが、

- ・近隣小学校の福祉教育活動への参加協力(依頼時)に関しては、社会福祉協議会を通じてプラットフォーム事業などを通じて、近隣の小学生に特別養護老人ホーム等PRができた。
- ・合志市地域包括支援センターを含む他市町村の包括支援センターと連携を図り、必要時は「地域ケア会議」に参加し、事例を提出し地域課題の提案や解決を含めた提言を行うことができた。
- ・地域高齢者サロンへの活動においては、第2層生活支援協議体の会議に参加し、地域住民の方が公

民館にてサロンを実施するにあたり、当法人の送迎車両を貸出地域貢献を実施する活動ができた。

・地域からの相談を随時受けつけ、在宅サービスに繋げ、他の有料老人ホーム及び介護保険施設及び医療機関との有機的な連携を図ることができた。

・災害訓練の協力

非常災害訓練を合志市において実施しているが、プラットホーム事業にてその計画打ち合わせに参加及び訓練においては、地域住民の方を第1避難所に避難していただき、第2避難所に移動その後段ボールベッドの組み立て方の研修を地域住民の方と一緒にを行い、災害時の居宅介護支援事業所の役割及びBCP計画の見直しができた。

・BCP訓練の実施、年2回のBCP訓練が義務化されるため、昨年度よりBCP計画書を作成し、実際に役立つのかの検証のために、インターネットサービスを活用しWEBで実施されるBCP訓練を受講した。結果、現在のBCP計画の変更点を知ることができ、再度BCP計画の見直しを実施しなければならない課題が見つかったため、本年度は計画の変更及び訓練の実施をしたい。(自然災害及び感染症の訓練)